

RT1-3 アウトソーシングによる特定保健指導の予備的評価・第7報

～保健指導の質の維持・向上のためのスタッフ研修会の概要と評価～

きの よしこ

○佐野喜子(株式会社ニュートリート) 福田洋(順天堂大学医学部総合診療科)
志村真紀子(株式会社保健教育センター)

【背景】

2010年度特定健診の受診率は、43.3%(前年比100万人増)と前年度の41.3%よりは伸びたものの「2012年度に7割」とする厚生労働省の目標には距離がある状況といえる。特定保健指導も5年目を迎え、経年対象者が増加している。そのため、データ説明や受信勧奨にも従来以上のニュース性やエビデンスが求められ、医療スタッフは新たな「動機づけ」に苦戦を強いられている。

【目的】

専門職といえども、対象者属性の差異、継続対象者、重症域の対象者など、多岐なバックグラウンドを持つMetS及び予備軍に対し、効果的な保健指導を提供し続けるには限界がある。そこで、困難事例や経年対象者並びに継続支援対策についてワークショップ研修会を実施すると同時に、医療スタッフに指導評価をフィードバックすることで、保健指導の質の維持・向上を図った。また、経年対象者と新規対象者の目標達成状況について検証したので合わせて報告する。

【方法】

1) 当年新規指導者と前年利用者の体重・腹囲の減少状況について比較検討した。2) 例年実施している基礎研修、レベルアップ研修に加え、ワークショップ研修会を実施した。事前にアンケート調査を行い、現場で困っているポイントや困難事例にテーマを絞り込んだ。また、課題内容に開きがあったので、初回面接および継続支援の担当者を分けて実施した。3) 対象者の経過報告(継続状況と減量率)と終了時アンケートを初回指導を担当した医療スタッフにフィードバックした。

【結果】

1) 積極的支援、動機づけ支援ともに、当年新規対象者に比べ、前年継続対象者は概ね1%前後体重・腹囲の減少率が低くなっていた。なお、国保・健保・共済での差はなかった。2) 研修会評価: 困難事例別対応への評価は「大いに参考になる」83%、「どちらかと言えば参考になる」13%、「どちらかと言うと参考にならない」4%、「あまり参考にならない」0%であった。「すぐに使えるような情報はありましたか?」には「はい」が95.6%と実践的であったことが示唆された。3) H22年度積極的支援における継続率は78.1%(H20年度74.7%)で国保92.4%・健保78.2%、終了時体重減少率は2.7%(H20年度3.0%)で国保3.5%・健保2.5%である。介入回数が増えるに従って体重減少率は高まり(3カ月目: $p=0.89$ vs 1M、6ヶ月目: $p=0.97$ vs 3M)、終了時の体重減少率と継続率には強い相関($p=0.80$)が認められた。

【考察】

保健指導医療スタッフの8割が「非肥満(BMI)のリスク保有者への対応は必要」と実感しているが、リスクが表出していないことが、対象者への動機付けを難しくしている。今回、医療スタッフが苦手とする支援課題の1つに「検査値の背景にある疾病リスクの効果的な説明」が挙げられた。コミュニケーションと説得力のコネクトする要素であるエビデンスを今後、どう取り入れていくかが指導力のカギとなるであろう。ラウンドテーブルでは、対応力のある保健指導のために求められるスキルについてたくさんの方のアドバイスを戴きたい。

【連絡先】 東京都品川区大崎 1-19-13-2508

株式会社 ニュートリート 佐野喜子

E-mail: y_sano@nutriat.co.jp